

浄土

monthly JODO

78

2021
July
August

令和3年

vol.87

no.955

[特別寄稿]

東京オリンピック 我がカヌー人生の集大成

成田昌憲（東京・世田谷 大吉寺住職）〔コラム〕羽根田卓也（リオ五輪メダリスト）



〔ふつつ放談〕
仏教とマンガ 佐山拓郎 工藤量導 大橋雄人
〔好評連載〕
江戸街道探訪 東海道の難所 森清鑑

法然上人鑽仰会

古物漂流

文と写真●三宅政吉
(グラフィックデザイナー)

連載6 光背残欠

写真は今年二月に開催された大江戸骨董市で見つけた光背残欠である。光背とは「後光、御光ともいい、仏菩薩の放つ光明を象徴するもので、仏教彫刻や仏教絵画においては必ずこれが表現されるのはインド以来の伝統である。仏の光明は色光と心光とに分けられる。色光とは仏身より外に向かって発せられる光、つまり身光である。心光とは仏にそなわる智徳圓滿の光、すなわち智恵光である。仏は内に智徳が充満することによって、おのずから外に光輝があらわれると考えられた。仏像仏画に表現されるのは色身相としての光明である」(『世界大百科事典』平凡社より)。追加するなら光背は仏教美術だけでなく、キリスト教においても神や聖人の体から発せられる光明として描かれる。仏教以前のゾロアスター教のミトラ神の頭部にも、放射状の光明が描かれている。とはいえ、やはり私たちにいちばんなじみが深いのは、仏像の光背だろう。

ブルーシートの上に、不在の仏像を取り囲むような形でバラバラになった光背が置かれていた。全体の大きさは縦一・五mくらいだろうか。全部で五千円とのことだったが、買っても貧乏所帯では置く場所などない。バラ売りはしないのか尋ねると、いいですよ、気に入ったも



額装した光背の残欠。制作年代は不明。長さは約190mm。金の輝きが美しい。

のを選んでくださいとのことである。あまり大きくなく、形の美しいものを選んだ。五百円である。

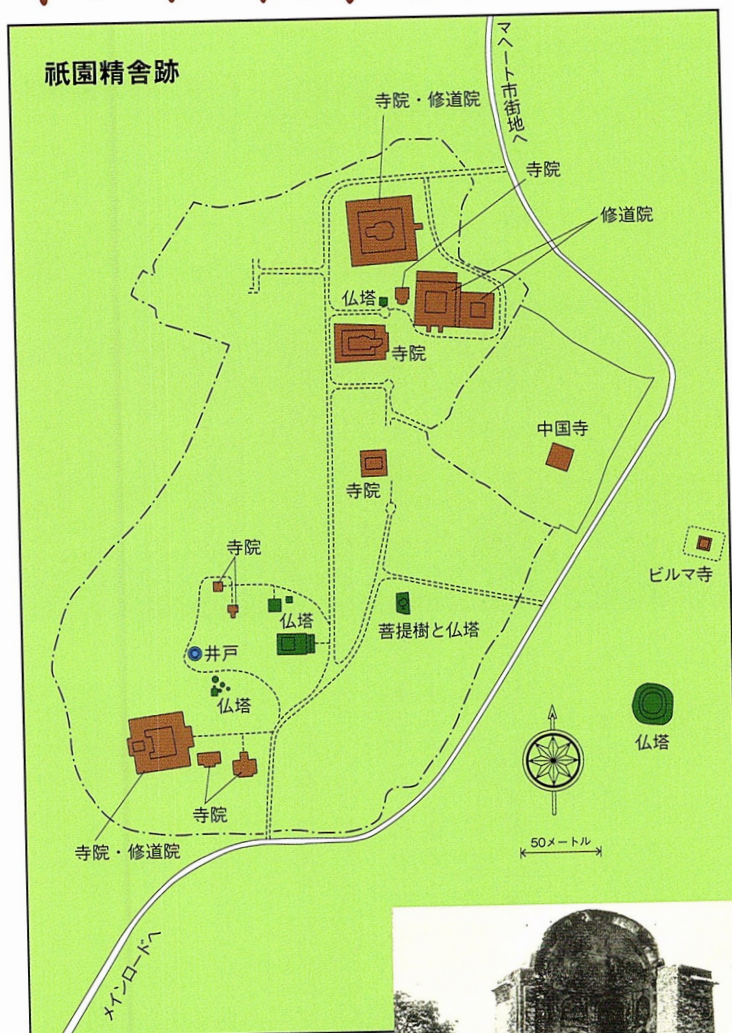
帰って刷毛でいいねいにほこりや汚れを払うと、美しい金色の地が出てきて驚いた。そのままにしておくこともできずに、額装して壁に飾ることにした。

インド渡航歴40回超！

佐藤良純の No. 13

インド・釈尊あれこれ紀行

舎衛城（シユラヴァステイ）



舎衛城内に残るソーバナート寺院跡

インド渡航歴40回超！

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.13

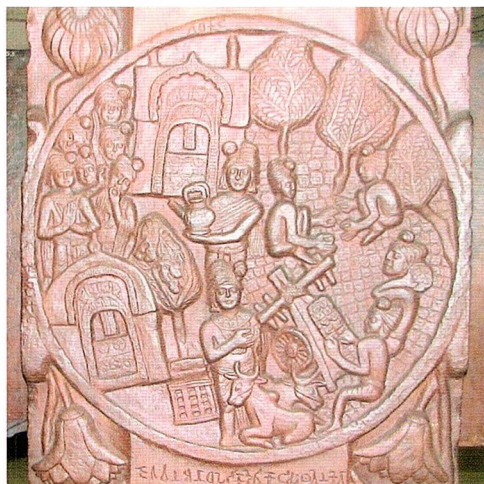
舎衛城内には多くの建物跡が現存している



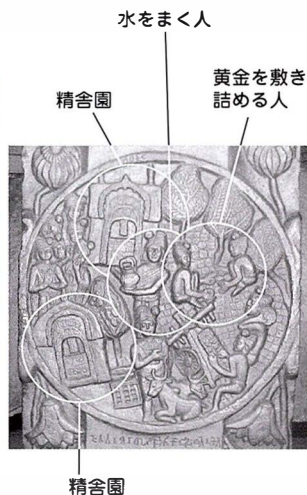
『平家物語』冒頭の一句、「祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響きあり」で有名な舎衛城シャタグロは北イン
ドのウッタラプラデーシュ州にあり、ラプ
ティ川（現在のアチラヴァティ川）の南に位
置する。その遺跡は北の市街地マヘートから
南西に少し離れたサヘートにある。

この地は紀元前16世紀から同6世紀まで栄
えていたコーサラ国の首都であった。釈尊の
時代にはパセナデー王の統治下にあり、農業、
商業の中心地で、5万7千軒の住居があり、
全人口は180万人、8万の村があつたと伝
えられている。交通の要衝でもあつたこの地
に釈尊はたびたび訪れた。

その釈尊のために精舎を建て寄進したいと
思っていたアナタピンディカという信者が、
ジエータ長者に土地の購入を願ひでた。する
とジエータ長者は、黄金を地面に敷き詰めた
分だけ売ろうと答えた。アナタピンディカ
は実際に黄金を敷いた。これに驚いたジエー



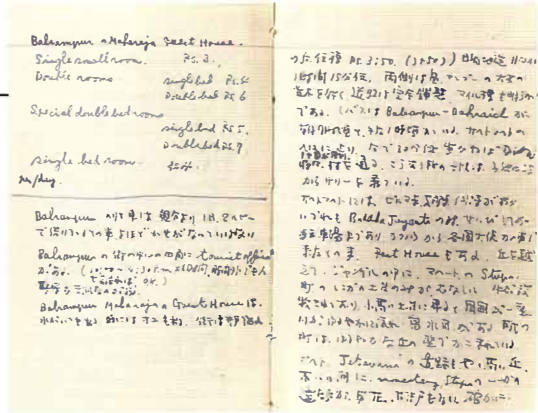
バルフート出土のレリーフ



タ長者は、敷き詰めた分以上の土地を寄進し、そこに精舎が出来上がったと伝えられている。精舎の境内には多くの遺跡が残っている。人を殺してはその指を切り、首飾りにしていたアングリマラーが、後に罪を悔い、釈尊に帰依した場所。釈尊の信者が多いのをねたんだバラモンが女を殺し、釈尊が殺したと触れ回ったため地獄に落ちた穴、そして、チンチャーなる女がお盆をお腹に巻いて釈尊の子と触れ回ったため、これまた地獄に落とされた場所などがある。

バルフート出土のレリーフ（浮き彫り）には黄金を敷き詰める人、中央には水をまく人の姿が見える。この図柄から、新しく何かを寄進した時には水を注ぐ風習があったことがわかる。またパセナデイ王の病を治療したミガラマータという女性信者が釈尊のために建立した、東園鹿子母講堂も近くにある。

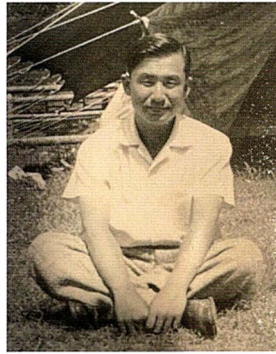
紀元前後にこの地を支配したクシヤナ王朝、



佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有次回。著書に「ブツダカヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。



1959(昭和34)年、インドでの著者



貴重な手帳はしっかりと革製

5世紀のグプタ王朝もこの釈尊ゆかりの地を、そして仏教を保護した。その5世紀にこの地を訪れた法顕が仏教の盛んな様子を今に伝えている。7世紀にこの地を訪れた玄奘は『大唐西域記』に、この地は荒廃しているが、なお多くの仏教遺跡がある、と記している。

私が1959(昭和34)年にこの地を訪れた時の記録が残っているので、ここに記そう。「汽車でデリーを発って次の日の午前中に舍衛城に一番近い駅、バルランプールに着く。人力車でおよそ一時間、丘の上に遺跡がみえてくる。その小高い丘に登ってみると北側に遠く川が見え、木々の間に精舎とストウーパが点在している。街も精舎も低い城壁に囲まれているのがわかる。」

そしてすべての遺跡には英語とヒンディー語の説明板があり、わかりやすい。その夜はマハラジャ(土地の所有者)経営するホテルに泊まる」思い出深い地のひとつだ。

浄土

2021/7・8月号 目次

連載インド紀行⑬「舎衛城」	佐藤良純	1
特別寄稿 東京オリンピック		
我がカヌー人生の集大成	成田昌憲	6
コラム 東京の舞台へ	羽根田卓也	11
寺々刻々⑫ 聖徳太子 1400 回忌に寄せて	鶴飼秀徳	12
ぶつぶつ放談「仏教とマンガその 1」		
佐山拓郎 工藤量導 大橋雄人		16
連載小説「式子内親王遺文」第 4 回	石丸晶子	24
微風吹動 「始まりのシグナル」	工藤量導	32
漫画「浄土宗のお祖師様」三祖良忠上人②	ぐんじまん	36
みんなの境内		39
江戸の街道探訪 東海道 (4)「街道の難所」	森 清鑑	40
編集後記		52
表 2 古物漂流⑥	三宅政吉	



表紙題字＝中村康隆元浄土門主

表紙写真＝若林隆壽

アートディレクション＝近藤十四郎

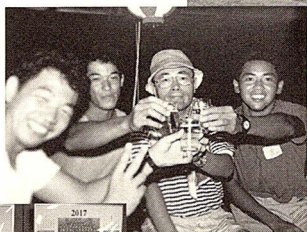
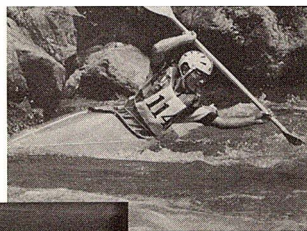
特別寄稿

東京オリンピック

我がカヌー人生 の集大成

成田昌憲

なりた しょうけん
1947（昭和22）年愛知県生まれ。日本カヌー連盟会長、アジアカヌー連盟会長、世界カヌー連盟執行役員。1972（昭和47）年のミュンヘンオリンピックのカヌー競技に出場。その後、日本代表コーチなど日本カヌー界をけん引してきている重鎮。東京世田谷・大吉寺住職。



選手、コーチ、役員として成田師は日本カヌー界をけん引してきた。右はミュンヘンオリンピック（1972年）に選手として出場した時の写真。中央はコーチ時代、左は役員時代の写真。

2020の東京オリンピック、パラリンピックの1年延期が決まったのが2020年の5月だった。それから1年、この原稿を書いている2021年の5月、延期された東京オリパラが2か月後に迫った今もまだ開催か否かは数の中である。ワクチン摂取の遅れ、コロナ禍が広がり続ける中、東京都、政府と都民、国民の意志は統一できていない。

本誌がお手元に届くのは7月始めと聞いた。さすがにその時点では開催、中止も決まっているだろう。そこで、開催、中止に関わらず、「オリンピックに選手として出場され、かつ世界カヌー連盟の重鎮でもある浄土宗僧侶としてご寄稿いただけませんか」という昨年秋季からの編集部の依頼もあり、開催の有無に関わらず、選手として、主催者の一員としてのオリパラへの思いを語ってみることにする。

さて、3年前の本誌新年号で私が住職を務める大吉寺が掲載されている。お読みいただいた方もいると思うが、誌面で私がミュンヘンオリンピックにカヌー選手として出場したこと、そして日本カヌー協会会長、アジアカヌー連盟会長、そして世界カヌー連盟の執行役員であることが記されている。その役職は今も変わっていない。

1938（昭和13）年、日本は国際カヌー連盟に加入した。爾来、脈々と伝統が受け継がれてきた。私にとってオリンピック出場の道を開いてくれた先輩、そしてかけがえのない後輩が精力を注ぎ、努力を重ねてきてくれたお陰である。そして、その甲斐あって、前回2016年のリオ五輪で羽根田卓也選手が銅メダルに輝いた。日本カヌー界、男女合わせて初のメダルだった。

メダルが確定した瞬間、私は「これで仲間

入りだ」と思わず心の中で叫んでいた。そう、メダルをとっている種目ととっていない種目の違いは、まさに天と地。日本オリンピック連盟の扱いが違ってくる。柔道のように金メダルラッシュの種目になると、銅メダルは金銀のメダルに埋もれるかもしれないが、初のメダルとなると色は関係ない。何色でもメダリストを出したことで、その種目がいわば大人の仲間入りをするようなもので、もちろん本人にとつても最高のキャリアとなる。

メダルを取ることの大変さは、私も選手時代、コーチ時代、そして役員時代とそれぞれの立場で実感している。現在、カヌー連盟の加盟国は165か国。これだけの国の代表選手がメダルを獲得するために4年間日々練習に励み続ける。そして、運もある中で、頂点に立てるのはたった3人なのだ。

選手時代を振り返れば、それこそフランス

のナショナルチーム、ドイツへの武者修行を繰り返し、日本にいる時は日夜体力作りに励んだ。それこそ一心不乱の日々だった。結果は7番目ゲートで転覆、メダルの夢は一瞬にして消えた。次のオリンピックの開催国カナダはこの競技が苦手な種目から外されていた。26歳の年齢を考えると、もう次はなかった。

あまり思い出したくないが、昨年、カヌーの日本代表候補がライバルの飲み物に薬物を混入した事件が起きた。私には晴天の霹靂、今でも信じたくないことだが、当事者は代表になってオリンピックで活躍、東京という地元でメダリストになればその後のアスリート人生が開ける。そんな思いがああ行為に走らせたに違いない。どんな種目でもメダリストになれば、引退後もコーチや解説者として活躍し続け、一生アスリートとして活躍できるのは言うまでもないことだろう。

さて、自分が選手の時はメダリストになることがすべてだった。そして、コーチ時代は選手をメダリストにすることがすべてだった。どちらも勝つことだけが唯一の目標だった。しかし、役員という立場になると、これがガラリと変わった。如何にしたら日本人が勝てるルールにできるか、を考えるようになった。まあ、ガラリと変わったのは身体を使うことが頭を使うことに変わっただけで、やはり勝つ、つまり日本人選手がメダリストになる、ということでは同じである。

私は日本カヌー連盟、そしてアジアのカヌー連盟代表として、世界カヌー連盟の執行役員として提案し、同時に採択もできる立場にもなっている。こうした立場になれたのも、選手時代にライバルだった欧州の選手のお陰だ。だが今は日本のそしてアジアの代表である。アジアでのカヌー競技を活発にし、アジ

アという地域での強化を図ることが私の役目なのである。

「お互いの近隣を助け合い、地域として教化を目指しましょう」と声をあげ続けた結果、今はアジアのメンバー37カ国中、30票がまわって動くことになった。この数はひとつにまとまらない欧州を超え、世界のカヌー界で今や押しも押されぬ第一勢力になったことを意味している。

そうした中、2020年に向け、2019年によく日本に国際コースが出来上がったのである。みなさんご存知の都立葛西臨海公園の隣接地に整備されたカヌースラロームコースである。当然だが、コース設計に私は大に関わった。

カヌー強豪国の欧州とアジアの選手では体も身体能力も異なる。身体能力の優れた者が勝つのは道理である。しかし、競技で使う道

具やコース設定で、少しではあるが、身体能力だけでない要素を加えることはできる。

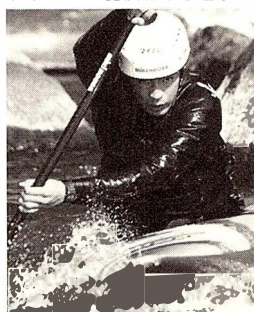
他の種目に言及するのはあまり好ましくないが、柔道やスキージャンプ、古くはバレーボールなど、ルールや道具が揺れ動いてきたのは、自国や自分達の地域を有利にしたいという各協会内、各連盟内の役員の綱引きによるものである。しかし、これは仕方のないことである。人というものはそういうものだ。急に人皆凡夫というような発言になったが、政治家が国益を優先するように、スポーツの世界でも我田引水という、国家間での引つ張り合いを私は嫌というほど、目の当たりにしてきている。

ということ、今度のオリパラでのカヌー競技は決められたルールや仕様の中でアジア人にとって活躍しやすいコースとなっている。もちろん規格内であり、歴史や経験に勝る欧

州にそんな少々のことでは勝てるとはいえない。しかし、最大限の可能性を追い求めた今回の東京大会は私にとって、そして日本のカヌー連盟にとって、アジアのカヌー連盟にとつてかけがえのない大会になることは間違いない。最後に日本のカヌー連盟の今の話を少ししよう。昨年9月にはスプリントカヌーの日本選手権をコロナの徹底した感染予防の中で開催している。10月には岩手でスラロームの日本選手権とNHK杯を開催した。その後も無理なく開催してきた競技の中で多くの代表選手を内定してきている。

今も選手と話をすることは多い。そんな時、選手たちには「オリンピックが開催され、この日本の各会場で思い切りパドルを漕ぐことだけを考えよう」と私は繰り返している。なぜならそれ以外の言葉を私は持ち合わせていないからだ。

カヌー競技での日本人初のメ
ダリスト、羽根田卓也選手



リオオリンピック銅メダル
日本代表選手

東京の舞台へ

羽根田卓也

僕は18歳の時にオリンピックでメダルを取るといって、当時では雲をつかむような夢を掲げて単身スロバキアに渡り、トレーニングに励みました。北京、ロンドンと着実に実力をつけ、2016年、27歳で迎えたりオで念願の銅メダルを獲得することができました。

そして現在、東京オリンピックという一生に一度の挑戦をすることが出来る立場にいます。自国開催のオリンピックというのは願っても挑戦

できるものではなく、まさに巡り合わせで幸運にも訪れた特別な舞台。これはまさしく選手冥利に尽きるものです。

リオオリンピックでの銅メダル以来、カヌー競技の認知度は高まり、東京オリンピックへ向けて、これまでよりたくさんの方の応援の声をいただくようになりました。

その中で東京オリンピックに挑戦する大きな意義のひとつを見いだすことができました。それはオリンピックを観る次の世代の子供たちへと夢のバトンを渡すことです。

僕もオリンピックを観て憧れ、他のスポーツ、そしてカヌーに没頭し、この舞台に立っています。それは先人のオリンピックアンたちが僕にバトンを繋いでくれたからです。今度は僕がオリンピックの舞台で子供たちの心を動かし、次の未来へポジティブ

なエネルギーを伝えることが役割のひとつだと思っています。

そして、その舞台となる日本初の人口カヌーコースが東京に誕生しました。競技会場としての完成度は世界一と言っても過言ではありません。

このコース、僕らにとって戦いの場ですが、かなりの急流で非常に難易度が高く、高度な技術が要求されます。一瞬の油断も許されない挑戦のしがいのあるコースです。今までの鍛錬で培ってきた自分の全てをぶつけて臨みたいと思います。

またこの施設はカヌーだけではなく様々なウォーターアクティビティの可能性を秘めた素晴らしい施設にもなっています。ですから、オリンピック後も、東京と言う世界有数の大都市にある施設として、よりたくさんの方々にご利用いただき、楽しんでいただけたと思います。

『お寺の日本地図 名刹古刹でめぐる47都道府県』著者

鵜飼秀徳の
寺々刻々聖徳太子
千四百回忌に寄せて聖徳太子が発願して建てた日本最初の官寺、
大阪の四天王寺聖徳太子千四百年御聖忌の
案内板が立てられている

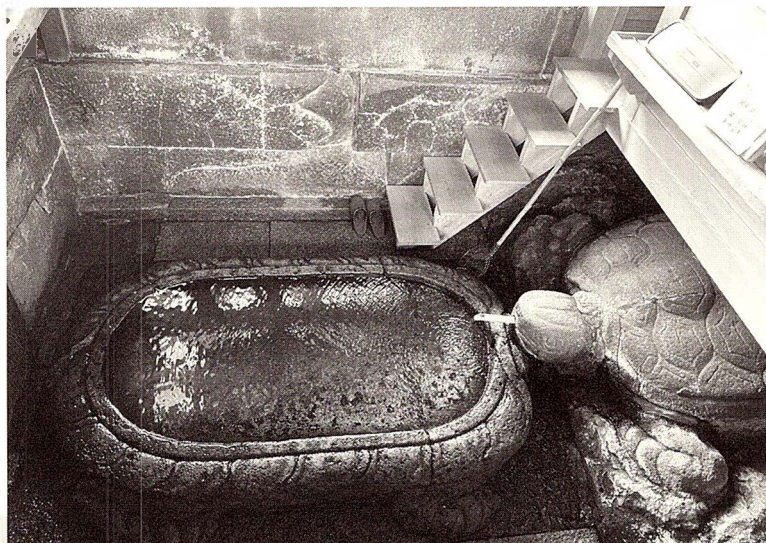
2021（令和3）年は、聖徳太子（厩戸王）の1400年回忌の節目の年である。太子は仏教を日本に根付かせ、宗教の枠組みをも大きく変え、622（推古天皇30）年2月22日に49歳で亡くなっている。コロナ禍に見舞われなければ今ごろ、太子を讃えるイベントが、各地で盛大に行われていたに違いない。

太子がまだ若かった当時、仏教の受容を巡って蘇我氏と物部氏が激しく対立。最終決戦を前にして、蘇我氏側の太子は「この戦いに勝利したあかつきには、四天王を安置する寺院を建立し、この世のすべての人々を救済する」と誓願を立てる。

結果、蘇我氏は勝利。その誓いを果たすために太子が建立したのが、大阪の四天王寺だ。

当時、日本の宗教としては、古来の神道があった。太子は神道における最高祭主である皇族の出身。その立場にありながら、未知の宗教である仏教に魅かれ、「篤く敬え」と命じたのだから、仰天である。以来、日本は神道と仏教が共存共栄する関係性ができていく。太子は、

四天王寺には太子が姿を映したと言われる亀型石が残る



仏教をも日本風アレンジしたのだ。

聖徳太子は、宗教だけではなく、政治、外交、文化等幅広い分野において多くのイノベーションを起こした。政治・行政の仕組みを構築し、「冠位十二階の制度」を定めたことはよく知られている。

世襲ではなく、身分に関係なく能力に応じて位を与えるなど、当時の既得権益にも鋭くメスを入れている。近頃、政治家の接待問題が指摘されるが、太子が今に生きていたならば大いに嘆いていることだろう。

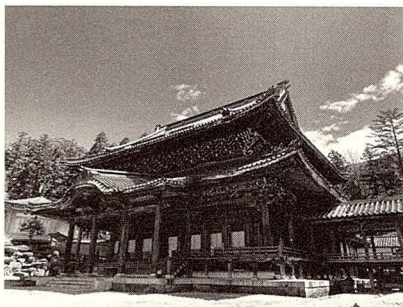
また、「和をもつて貴しとなし」で始まる「十七条憲法」は、わが国最初の成文法だ。これは法律というより「心構え」を記したものだ。第9条には「信は是れ義の本（もと）なり——」とある。これを訳せば、「何事にも信頼が大事だ。何事も誠実に取り組み成功する。だが、真心を失えばすべてが失敗に終わる」となる。

第10条には「心に怒りを抱いたり、あからさまに嫌な顔をしたりすることはやめよ。相手が怒ったら、反論せず、素直に非を認めることも大事だ」。などである。十



聖徳太子が秦氏に命じて作らせた広隆寺

聖徳太子創建の鶴林寺。右の小堂は聖徳太子を祀った太子堂



一万円札の聖徳太子

七条憲法に記された心構えは、現代社会でもそっくりそのまま使える内容だ。

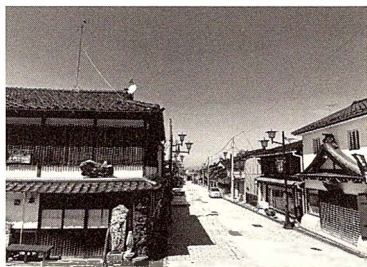
太子は日本最初の「外交官」でもある。遣隋使の小野妹子を派遣し、隋の皇帝に「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す」との国書を渡し、国交を結ぼうと考えた。隋の皇帝は、「日没する処の天子とは、無礼なり」と激怒したが、妹子の粘り強い説得によって日本と隋との交流が始まり、後に遣唐使として引き継がれた。かの伝教大師最澄や弘法大師空海も遣唐使であり、その後の法然上人の浄土宗開宗にも繋がるといえば、感慨深いものがある。

全国に太子ゆかりの寺院は多い。多くが伝説の粋を出ないが、先述の四天王寺や世界最古の木造建造物である法隆寺、京都最古の広隆寺、兵庫県加古川の名刹で「西の四天王寺」ともいわれる鶴林寺などは、太子創建の信憑性の高い寺院である。

「日本仏教の祖」となった太子は中世、追慕の対象となり、「太子信仰（太子講）」という信仰形態ができる。太



富山県井波の瑞泉寺太子堂



太子信仰がつくりあげた井波の街並み

うかい・しゅうとく 1974年京都市生まれ。大学卒業後、新聞・雑誌記者を経て2018年にジャーナリストとして独立。「仏教界と社会との接点づくり」をテーマに活動が続ける。最新刊に『お寺の日本地図 名刹古刹でめぐる47都道府県』（文春新書）。東京農業大学・佛教大学非常勤講師、一般社団法人「良いお寺研究会」代表理事。京都教区正覚寺住職。

子は特に大工や石工ら職人らの守護神として祀られ、ものづくり文化に大きく貢献していく。

たとえば、富山県の井波地区（南砺市）は彫刻の町で知られる。大阪・岸和田のだんじりも井波職人の手によるものだ。井波では古くから太子像を祀り、信仰する風土が残っている。市内には数百にも及ぶ太子像が存在している。井波のシンボルである瑞泉寺には壮麗な太子堂があり、井波彫刻の技がふんだんに盛り込まれている。

鶴林寺のお膝元、加古川では豊臣秀吉による播州攻めの復興過程で大勢の大工が入った。その大工道具を作るために金物業や刃物業などが盛んになり、今でもこの地に根づいている。その紐帯となり続けたのが、職業講である太子講だった。

井波や加古川のものづくり文化は、市民の太子への思慕がつくりあげたものといえるだろう。

コロナ禍が続く。社会が疑心暗鬼になって、差別が生まれるなどの歪みが生じている。いまこそ、日本人は太子の理念や哲学を再評価し、学ぶべきと思う。

浄土宗の青年僧侶に伝えたい

ぶつぶつ放談

マンガが日本文化のひとつとして世界中に認知されて久しく、「たかがマンガ」時代はもう過去のもの。むしろマンガだから親やすく伝わりやすい魅力がある。若手僧侶に仏教からの視点でマンガを語ってもらった。

(聞き手・編集 服部祐淳)

◆登場者◆

佐山拓郎



さやま・たくろう

1975年東京都台東区生まれ。東京教区・根岸 西念寺所属。大正大学仏教学部卒業。ジブリ原作者の父の影響で、幼少よりサブカルチャーに親しみ、仏教と融合させた法話を実践、ウェブサイト「ここより」で「ドラゴンボール法話」を連載。また「ドラクエ法話」も行つ。著書『流されない練習』(二笠書房・知的生きかた文庫)。「押しマンガ」はやはり、ゆでたまご『キン肉マン』です。

工藤量導



くどう・りょうどう

1980年青森県今別町生まれ。青森教区・今別町 本覚寺副住職。大正大学大学院仏教学部仏教学科博士後期課程修了(博士・仏教学)。専門は中国隋・唐代の浄土教思想。著書『迦才「浄土論」と中国浄土教―凡夫化土往生説の思想形成―』(法藏館)。現在、浄土宗総合研究所研究員、大正大学非常勤講師、淑徳大学兼任講師、ひとさじの会理事。最近の「押しマンガ」は、田島列島『水は海に向かって流れる』。

仏教×マンガ ①

大橋雄人



おおはし・ゆうにん

1981年神奈川県川崎市生まれ。神奈川県川崎区高津・大蓮寺住職。大正大学仏教学科卒業。大正大学大学院修了、博士(仏教学)。大正大学非常勤講師、浄土宗総合研究所研究員、大本山光明寺記主禪師研究所研究員。ほか全国浄土宗青年会幹事、全日本仏教青年会事務局長などを務める。お薦めマンガは、きらたかし『没イチ』です。

司会 これまでどんなマンガを読まれてきましたか？ 名刺代わりにお聞かせください。
大橋 有名どころはだいたい揃っています。

『ワンピース』『ドラゴンボール』などジャンプ系が多いかな。その他『風雲児たち』など、偏ったジャンルも含め、マンガ喫茶を開けるくらい単行本を持っているかもしれません(笑)。
司会 そうですか(笑)。工藤さんは王道はもちろん、サブカル系や少女マンガ系も強いと聞きましたが。

工藤 はい、上京してアパート暮らしでしたが、近くの池袋に大型書店ジュンク堂があったのが大きかったですね。マンガの品揃えもすごくて実際に手にできる喜びといったら！
佐山 最高ですよ！ ジュンク堂はまさに夢空間。私が大学生の時にできたのです。

工藤 週刊誌では『少年ジャンプ』や『少年マガジン』、『モーニング』、他にも『I K K I』

主な仏教マンガ(年代順)

1954～88年

『火の鳥』手塚治虫・学童社ほか 手塚治虫のライフワーク作品で不死鳥を巡る人間ドラマを描く

1972～83年

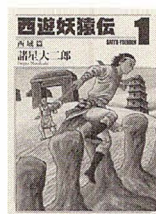
『ブッダ』手塚治虫・潮出版社 仏教マンガの源流。独自の世界観で貫かれた手塚版ブッダ伝

1980～84年

『日出処の天子』山岸凉子・白泉社 仏教を取り入れた聖徳太子をその苦悩の日々までも描く

1983～年

『西遊妖猿伝』(大唐篇・西域篇)諸星大二郎・講談社 「西遊記」に大胆なアレンジを加えた玄奘と孫悟空たちの大冒険活劇



や『アフタヌーン』などの月刊誌も読んでいましたが、やはりかさばってきて……。自然と電子書籍や単行本派になっていきました。佐山 月刊誌は寝ころびながら読めないですもんね。重い(笑)。

工藤 高校生までは大橋さんと同じように少年・青年系マンガが中心だったのですが、大学時代の女性の友人に少女マンガを借りて読んだら、「こんな文化があるのか、濃いな」と感銘を受けました。男性目線で見ると「えっ、そこ、そういう感情になる!」ってところも多くて、読み解くのも難しいのですが、その奥深さにハマってしまいました。

司会 少女マンガならではの世界ですか。

工藤 薦めてもらって読んだ大島弓子(主な作品『バナナブレッドのプディング』)や吉野朔実(主な作品『ジュリエットの卵』)も好きですが、何より志村志保子『女の子の食

1984～90年

『ファンシィダンス』岡野玲子・白泉社 禁欲のボーカル僧侶ライフを「ミカル」に描く。89年に実写映画化

1985～89年

『孔雀王』萩野真・集英社 密教世界を主題にした作品で「宗教漫画ブームのはしり」(作者)

1992～94年

『玄奘西域記』諏訪緑・小学館 若かりし玄奘が天竺をめざしてシルクロードを駆け回る歴史のファンタジー

1993～96年

『あつかんベエ一休』坂口尚・講談社 室町時代の禅僧・一休宗純の生涯を描いた作品

1997年

『弘法大師空海』ジョージ秋山・集英社 空海の知られざる幼少期から青年期にかけての物語



卓』が衝撃的な作品で、今でも人生の教科書として何度も読み直しています。

それから『BANANA FISH』『海街Diary』で知られる吉田秋生にもどっぷりハマりましたし、岡崎京子（主な作品『リバーズエッジ』）なども世代的に読んでました。ブックオフなどで中古本もずいぶん探索に出かけましたね。学生時代は暇な時間もあったので（笑）。

司会 佐山さんはどんな作品を？

佐山 父がマンガ関係の仕事もしていた影響で、子どもの頃から家にはたくさんさんのマンガがありました。『あしたのジョー』など古い作品から始まって、そのうち『ジャンプ』には大好きなアニメばかりだと知るので、『Dr. スランプ』『ハイスクール奇面組』『ギャプテン翼』『キン肉マン』などがなんと一冊に。工藤 うああ、それは黄金期ですね！
佐山 こんな夢のような雑誌が毎週170円

2003年

『ブッタとシッタカブッタ』小泉吉宏・KADOKAWA ブッタの教えをサブキャラを使い優しく説いた四コマ漫画

2006年～

『聖おにいさん』中村光・講談社
ブッタとイエスの日常コメディ。映画化、実写ドラマ化され共にヒット

2009～10年 『ぴぼず』相内美

乃ノ桜井美音子・集英社 秘呪を唱える美貌の僧が父の仇を追うサスペンス物語

2009年

『坊主DAYS』杜康潤・新書館 臨濟宗寺院の住職を主人公にした初の坊主ミミック・エッセイ

2010年

『仏像に恋して』真船きようこ・新人物往来社 女子大生が仏像に一目惚れして仏像マニアになるまでを描く



で買えるなんて！と心躍らせました。あの頃の『ジャンプ』がすごいのが連載漫画の半分くらいが常にアニメ化されていたのですよ。どんだんのめりこんでいました。

司会 マンガを読んでいて、ふと仏教を感じた瞬間は？

佐山 子どもの頃は感じませんでした。が、仏教を学ぶ中で気づかされる瞬間がありましたね。例えば『キン肉マン』で極悪の悪魔超人が戦いの中で友情を理解して泣くシーンがあるんですけど、痛い、悲しい以外で「泣く」という感情があることを子ども心に学びました。これって他者の感情を慮るという点では仏教の第一歩のような気がします。

工藤 私も子どもの頃はマンガと仏教はあまり結び付けて読んでいませんでしたが、幼心に印象深かったのが『こち亀』に「神様」と呼ばれるでっかい大仏ができて、なぜか両

2010～12年

『フリンメン―THE IMAGE MAKER』
小野洋一郎・講談社 仏師だった父親を目標にする青年を描きながら造形の世界を描く

2011～14年

『お慕い申し上げます』朔ユキ蔵・集英社 色欲に負けつばなしの副住職のお寺系ラブストーリー

2011～20年

『鬼灯の冷徹』江口夏実・講談社 閻魔大王に抜擢された鬼神の活躍を描き海外の悪魔・妖怪も登場

2012～13年

『壊れた仏像直しマス。』芳家主三・芳文社 仏像修復師を描く中で数々の仏像が登場する

2012～20年

『病室で念仏を唱えないでください』こやす珠世・小学館 僧侶で救急医の松本照門を主人公とした医療漫画。TVドラマ化



さんと全力で渡り合うという(笑)。

佐山 いたいた(笑)

工藤 50巻前後だったと思いますがすごく盛り上がりました。とにかくめっちゃ面白い(笑)。だって、いきなり自分のお寺にもある仏像が大好きなマンガの世界にでてきて、両さんとやりあうわけですから。子どもながらに何かソワソワする気持ちになりました。

司会 仏像は身近ですからね。

工藤 その後は手塚治虫の『ブッダ』や『ブッダをめぐる人々』『あっかんべー休』、それから西遊記など玄奘三蔵に関連するものでは『西遊妖猿伝』『玄奘西域記』などに出会い、なるほど骨太の仏教マンガがあるんだなあと。

そうこうしていると『聖おにいさん』が出てきて、こんな切り口で仏教・宗教を語れるのかと、新鮮でしたね。

大橋 確かに仏教マンガも多彩な切り口の作

2014～16年

『ぶっしのぶっしん鎌倉半分仏師録』
鎌倉悠希・スクウェア・エニックス
鎌倉時代の少年仏師をめぐるスペクタクル仏像絵巻

2014～21年

『阿・吽』おかざき真里・小学館
最澄と空海の歩んだ道を描いたヒストリカルビューマンドラマ

2015年～

『サチのお寺ごはん』かねもりあやみ・秋田書店 精進料理の数々が登場するお寺を舞台にしたグルメ漫画

2016～18年

『猫のお寺の知恩さん』オジロマコト・小学館 田舎の古寺を舞台にした癒されるラブコメディ

2017～18年

『月と金のシャングリア』蔵西・イーストプレス 動乱前のチベット僧院での人間模様。チベット寺院描写が秀逸



品が登場してきて、いちジャンルを確立した感じはあります。中高生の頃に『うしおととら』を読みました。妖怪退治の話で、主人公がお寺の子なのでお寺の場面もあり、妙な親近感を感じながら読んでいました。マンガに出てくる仏教って、主人公が不思議な力を持っていて、悪者を退治する展開が多いです。佐山『孔雀王』もそうですね。

大橋 そうそう。時々「それは仏教ではない」と指摘する声もありますが、それはそれで、マンガ中のフィクションとして見るとおもしろいですからね。まさに『聖おにいさん』みたいな斬新な切り口の作品も登場するわけですし。そこは楽しんで読むスタンスがおすすめです。

大学に入って仏教を本格的に学ぶと、マンガの読み方も変わってきました。いわゆる仏教マンガではなくとも、お坊さん目線で見ると

2017～18年

『恋する仏像』会田薫・講談社 仏像彫刻に打ち込む少年の青春を描く青春グラフィティ

2017年～

『ぶっカフェー』小林ロク・星海社 寺カフェで働くイケメン僧侶たち煩惱ライフ。WEBで無料配信

2019年～

『高丘親王航海記』近藤かりん・KADOKAWA 滋澤滝彦の原作の漫画化。唐へ渡った親王の数奇な生涯を描く

2020年

『丁寧な暮らしをする餓鬼』塵芥居士・KADOKAWA 餓鬼草紙タツチ4コママンガ。Twitter人気からマンガへ



と、ここ仏教的だな、みたいな。例えば『銅の錬金術師』（荒川弘）、通称「ハガレン」なんてそうですよね。

工藤 そう！「ハガレン」は私もお坊さんとしてお薦めしたい仏教「的」マンガです。命の重みや錬金術で等価交換するモノの価値なんかが描かれていて、テーマがいいですね。大橋さんの家で読んだのですけど（笑）。

司会 工藤さんにとってのマンガ喫茶ですね。工藤 まさにそうです。「ハガレン」には国政や民族のことも描かれ、そこに宗教との関係性も現れてきます。SFは宗教のディテールを入れると一気にリアルになると思っています、マンガで以外でもたとえば「守り人シリーズ」や『鹿の王』で知られる上橋菜穂子作品も宗教がリアルに描かれることで世界観がどっしりするように感じています。

佐山 宗教をとり入れることによって人間の

生き方が浮かび上がってきますよね。

工藤 『鬼滅の刃』もそれにあたります。鬼殺隊の悲鳴嶼行冥は「南無阿弥陀仏」が代名詞となっていますし、童磨という鬼が教祖の万世極楽教という架空の教団も登場するなど、宗教性を通じて慈悲や欲望が描かれ、フィクションになり過ぎない人間の本質がきちっと描かれています。これは普遍的に人の心をうつものですから、この作品が大ヒットにつながった要因のひとつでしょう。

司会 仏教マンガに出会う、というより仏教を学んだうえでマンガの中に仏教を見出すという方が多いわけですね。大橋さんは大正大学の授業でマンガを取り入れていると伺いましたが、どのような授業ですか？ 次回はその話からお聞かせください。（つづく）

式内親王 遺文子

連載
小説

その
4

絵

石丸晶子

啞々砂



いしまる・あき 1935年東京生まれ。
東京大学文学部 同大学院博士課程修了。
近代文学を専門とするが、日本古典の著作
も多く、1991年、「式内親王伝」朝
日新聞社）で紫式部文学賞を受賞。東京経
済大学名誉教授。著書に「お手紙からみる
法然さま―そのお人柄」短編小説「月
影の使者」（ともに浄土宗出版）など多数。

領子ねりしは安徳天皇の乳母の筆頭として終始天皇と御母おんはは建礼門院に付きそい、一門が権勢を誇った時代からわずか二十余年で都を追われ西海をさまよい、壇ノ浦で滅亡するにいたるすべてのこと目撃者であった。わずか八歳の幼い安徳天皇が、二位の尼に抱かれて壇ノ浦に身を投じられるその一部始終を、まづかに見てきた生き証人であった。

建礼門院はじめ領子など一門の女性たちが帰京し、許されてそれぞれが己の道を見つけて暮らしはじめたとき、師父の草庵では法蓮房様がいち早く女性たちを見舞い、念仏信仰への帰依をいっそう深めるように尽力された。

事実、建礼門院をはじめ壇ノ浦から帰還した女性たちにとって、この信仰に生きて弥陀仏により頼む以外、生きる道はなかった。彼女たちを通し、一門を襲った恐ろしい不幸の一部始終は法蓮房様に伝えられ、師父の御許にも伝わっていたのである。

西海をさまよった悲惨な日々のことを、私

が法蓮房様から直接伺ったのは一門滅亡から三年ほどたった後であったけれど、平家は摂関家をはじめ都の公卿・公家・殿上人たちと網の目のように縁戚関係を結んでいたから、都落ちして西海に出た彼らの動きは、滅亡以前から都のそこに広まっていた。平家と縁戚にある貴族たちの従者や下人たちが、命じられて海上の平家とゆききし、逐一都の主人に報告していたのである。

月光さえる夜であったという。一の谷の合戦前夜、十七歳になる清盛の孫敦盛は「青葉の笛」として知られた名笛めいてきを心ゆくまで吹いていたこと。この敦盛は熊谷次郎直実に須磨の浜辺で首を打ちとられたとき、匂うばかりに美しい顔にはうつすらと化粧がなされ、腰には前夜、月光をあびて吹いていた青葉の笛が挿してあったこと。敦盛と同じ年ごろの息子をもつ直実は、「東国の土にまみれ戦場の血にまみれて育ったわが子とは何という違いか。源氏の武将がそば近くにいなかったならば、お助けしたいものを」といって泣く泣く

敦盛の首を刎ねたということ。などなどが都の公家社会にいち早く伝わっていた。

一の谷で戦死した平家の公達をはじめ、壇之浦で生け捕られた宗盛父子などは源氏の手によつて全員首を刎ねられたのち、その首は賀茂川の橋のたもとに晒された。洛中洛外から多くの人びとがそれを見物にやつてきたという。この歲月、私はといえば、凄惨な乱世の相を目前に見聞きし、そのなかで生きてきて、弟以仁を失つた恨みや悲しみはなくなつていた。個人である弟一人の死をはるかに上回る、人間世界を超越した何かを一門滅亡のうちに感じて、私はただ肅然として心に深く慄いたのである。当時、人の世の姿にいかに慄いていたか、あのころの私の心を文字にした歌を、もう一度しるしておきたい。

日に千たび　心は谷に　投げ果てて
有るにもあらず　過ぐる我が身は
浮き雲を　風にまかす　大空の
行方も知らぬ　果てぞ悲しき

始めなき　夢を夢とも　知らずして
この終りにや　覚め果てぬべき

思い出すままに、法蓮房様から一門の人びとのことを涙とともに伺つたときの、私の深い追悼を託した一首もしるしておこう。

伝へ聞く　袖さへ濡れぬ　波の上
夜深く澄みし　四つの緒の声

今、都を落ちていった平家の話を法蓮房様から伝え聞いていると、心はもとより、袖までが涙でぬれてしまった。源氏に追われて西海を漂うことになった平家の人々は、源氏が襲撃する恐れのない深夜、都を偲んで琵琶船上でかき鳴らし、その澄んだ調べは、波の上遠く静かに四方に伝わっていったという。

この詠を私の歌の師匠俊成に見せたとき、彼は「白楽天の『琵琶行』をお歌いになれましたか」といった。もちろん、私も『琵琶



行』の漢詩は知っている。しかし、これを和歌に詠み直したのではない。あのころ、西海をさまよった平家の哀話は法蓮房様から直接伺ったのをはじめ、都中に広がっていた。この一首には、その恐ろしい悲運を悼み悲しむ私の心がこもっている。

記憶を少し元にもどすと、一門都落ちの数日前、叔母である八条女院様の太秦にある山荘に避難した私は、翌年一月、早くも義仲がおなじ源氏に討たれて戦死し、つづく二月初旬、義経ひきいる源氏によって平家が一の谷で敗北した元暦元年（1184、寿永三年・四月改元）の暮れ十二月、八条女院様方とともに女院様の本邸である洛中八条殿に移っていた。

まだ源平合戦のさなかであつたけれど、義経ひきいる源氏の大軍は平家と勝敗を決めるべく西海に向かい、源平の合戦場は洛中ではなく西海であることが予想されたことと、天皇家の女性たち四人までもが従者ともども避難におもむいた太秦の山荘は手狭すぎたため

である。

もとより、源平両軍に踏みあらされた後の洛中内外は荒み、強盗が横行して夜間はもとより日中とて町中に出ることは危険な状況であつた。

しかし方一町（109メートル四方、3000坪）を超える八条殿は思ったよりもあらされておらず、女院様のこの本邸で女院、弟以仁の娘で生まれたときから女院様が猶子にして育ててきた以仁姫宮、私とは母を同じくする次姉の前斎宮好子、そして前斎院の私、がそれぞれ住む棟を違えて侍女や従者とともに暮らしはじめた。

平家が壇之浦で滅亡したのは私たちが洛中に帰ってきて三か月あまり経った翌元暦二年（1185、八月、文治元年に改元）三月二十四日である。事の次第は早馬や船によつて二十五日には都に伝わってきた。平宗盛父子など、少数ではあるけれども海で死にきれず生きのこつた平家の男たちは、洛中引きまわしの末、頼朝に対面するために鎌倉へ護送

された。そして鎌倉から京へもどる途中、首を刎ねられたのである。首は獄門にかけられた。連日、洛内外から多くの人びとが見物にやってきたという。

―壇ノ浦から生け捕りになって帰京した建礼門院はじめ一門の女性たち―

―一門滅亡後、その残党狩りのために入京してきた北条時政ら源氏の武士たち―

こう書きしるしていくと、あの恐ろしい日々^{あひきまうかん}のことが心に蘇ってくる。市中に広がる阿鼻叫喚^{あびきまうかん}の泣き声が蘇ってくる。

これらについてはもう筆を止めよう。先にもしるしたし、思い出すだに心が震える。

師父法然房様に私がはじめてお目にかかったのは、平家滅亡の翌々年、文治三年（1187）春であった。師父五十五歳。私は三十九歳になっていた。

世情騒然とし、誰もが明日への不安と戦慄のなかに置かれていた安元^{あんげん}（1175）のころから、時に侍女たちが、万民救済の弥陀仏のご誓願により頼むことを説く師父のみ教え

が平家一門をはじめ公家たちや庶民のあいだに広がりはじめていることを話していたけれど、天皇家をもろに巻きこむ騒ぎがつづくなかで、師父のご存在に心向かわせる余裕がなかった。

安元になってからは疱瘡の大流行、洛中を襲った大火、父後白河法皇の五十の賀宴、建春門院の逝去、六条幼帝の崩御、三条高倉第にともに住む母成子の逝去、鹿ヶ谷の事件、私の後見である叔父の死去、弟以仁王事件、法皇と平家との争い、清盛による法皇の幽閉：そして源平の合戦騒擾、と息つく暇もないほどさまざまな事件がうち続き、仏の教えに心向かわせる余裕はなかった。

その私は文治三年（1187）の三月はじめ、早咲きの桜花が咲き匂う八条殿で師父に見えた。仏事を莊嚴に執りおこなうことを好み、社寺詣でに、物見遊山に、と出かけることを好まれる八条女院様が、源平合戦の決着がつき、洛中から合戦騒擾の騒ぎが遠のいたこの日、桜花美しい自邸に、巷のうわさに高

い師父を招いて法筵ほうえんをひらいたのであった。

この前年の秋、洛北勝林院で師父は、天台眞言をはじめとする他宗派聖道門仏教の高僧たちに乞われ、念仏門仏教と聖道門仏教について一昼夜にわたり談義しあわれたという。そしてついに、聖道門の高僧たちはみな、師父が説く浄土門の教えに伏し、全員が三曰三晩称名念仏。浄土門に入ったのであった。

この噂が都中に広がっていたのである。

この席には私とは同年で、日ごろ八条院とは親しい摂関家の兼実なども招かれていて、師父は法蓮房様をとまなわれていた。

法蓮房様は中山中納言と称された藤原顕時の実孫であり、平家の焼き討ちによつて焼失した東大寺再建のために設けられた造東大寺長官藤原行隆の長子であった。従つて、女院様のお招きにこの御弟子をとまなわれても、失礼になることはなかったのである。

私とは同年の兼実は、当時、安徳天皇の後を承けて皇位に就いた後鳥羽幼帝の摂政になっていた。

法筵を開いたのは邸の主で叔母の八条女院やうでいであるから、私はその奥の陰に座して聴聞していたけれど、一目で私は、師父のうしろに長い苦難の歲月があることを直感した。華やかなことを好まれる女院様は法筵の設えにも意匠を凝らし、美しい法衣や水晶の数珠などを用意してはじめて迎える師父に歓待を尽くし、法話のあとには茶菓を用意して師父との会話を楽しまれた。

あの日の師父と女院様との会話を思い出してみようと思う。

「平家の者たちは早くから御房ごぼうのみ教えに帰依していたと聞いておりますけれど、一の谷の合戦で義経に捕らえられた重衡しげひらのたつての願いで、彼が死罪になる前、御房に対面できる許しを院（後白河法皇）からもらい受けたのはわたくしでした」女院様はいわれる。

「あの日のことは、わたくしにとつても忘れ難いものでした。弥陀のご本願によつて重衡殿はまっすぐに念仏往生されたことを信じております」師父はお応えになる。

「ほんに、御房のみ教えがなければ、興福寺や東大寺を焼いた重衡は、どんなにか地獄へ落ちること必定の思いで処刑されましたろう」

涙ぐんで女院様はお続けになる。

「もはや過ぎたことになってしまったけれど、平家一門の公達はみな容姿美しく、宮中諸行事の故事来歴をわきまえ、立ち居振る舞いも美しくてね。そこへ行くと野育ちの源氏は……」

女院様はさらにお続けになつて、

「思うのですよ。清盛は院を鳥羽殿とばどのに幽閉したり、前代未聞の悪行をやつたけれど、今、洛中で源氏がしているような、市井に暮らす罪なき幼児や人びとを殺戮するようなことはしなかったとね。平家は男女ともに容姿美しかったし、礼儀というものを知る者たちであつた。しかし、御房によれば残酷無慈悲の源氏の武者たちも、お念仏ひとつ称えれば極楽往生できるといふのであろうか」

このころ、都では源氏が平家の残党狩りに血眼になっていた。密告したものには多額の金品が支払われることから、市井に暮らす庶

民のなかで顔立ちの美しい子供や赤子を、近隣に暮らす者たちが「これは平家の落とし子供です」といつて突き出し、突き出された子供の親が泣き騒いで否定すると、「これはこの子の乳母なので泣き騒いでいるのです。平家の落とし子に間違ひありません」といい、平家とは何のかかわりもない市井の子らが、ただ見目美しかったがために源氏に突き出されて処刑されることが頻発していた。

「もちろん、お念仏は幼子がもてあそぶ玩具ではありません。源氏が今、都の辻々でなしているような無残な行為が、許されるはずは全くありません」そういつて師父は深い嘆息を漏らされた。

「ただ、人間はみな罪深い者です。みずからを省みるとき、誰ひとりとして阿弥陀仏の前に出て『わたしは罪など犯したことのない清浄無垢にして慈悲心だけを持つている者です』といえる者はありません。もしいるとしたならば、それは自らを内省する力に欠けている者でしょう」

(つつく)



微

風

吹

動

始まりのシグナル

やわらかくて

きもちいい風

わたしの頬をなでた

だいじょうぶだよって

言われたような気がして

大きく

息をすいこんだ

工藤量導

(原田郁子「やわらかくてきもちいい風」より)

オンライン導入が当たり前になって久しい。周囲でも大学の授業や研究会など、オンラインでのやり取りは日常になりつつある。先般、「オンラインにおける寺院活動」と題したシンポジウムをコーディネートした際に、個人的に興味をもっていたのが「はたしてオンラインのつながりだけで信頼関係を築くことはできるのか？」という問いである。

きっかけは霊長類研究の第一人者・山極壽一氏への某インタビュ記事で、人間はインターネットやスマートフォンなど、身体が離れたまま脳でつながる装置によって安易に「つながった」と錯覚してしまうが、実際には信頼関係が担保できているわけではない。実はゴリラなどの動物もそうだが、五感のうちの触覚、味覚、嗅覚という「共有できないはずの感覚」こそが信頼関係やチームワークをつくる上で大事なものである、といった主張を目にしたことである。確かにオンラインは視覚と聴覚という共有しやすい感覚器官に依存する部分が圧倒的に大きい。情報伝達という面での不足はないけれど、ゼロからイチを創出するような新しい関係性作りには向かないのが実情だ。

『手の倫理』の著者である伊藤亜紗氏によれば、西洋哲学における感覚のヒエラルキーは視覚と聴覚が基本的に上位で、それ以外は下位に振り分けられてきたという。たとえば認知対象が刃物や毒であったりする場合、比較的安全な距離感にある視覚・聴覚に比べて、触覚・味覚・嗅覚というのはどうしても危険

くどう りょうどう 1980年青森県今別町生まれ。青森教区本覚寺副住職。博士（仏教学）。浄土宗総合研究所研究員。大正大学非常勤講師、淑徳大学兼任講師。専門は中国浄土教、著書に『迦才『浄土論』と中国浄土教—凡夫化土往生説の思想形成』（法蔵館、2013年）など。

を伴う、頼りにしづらい感覚器官と見なされてきたことも一因のようだ。

ただし、触覚の「弱さ」は同時に信頼を築く「強み」にもなりえる。社会的不確実性、つまり何がしかのリスクがある場合でも、他者に心を許して身をあずける覚悟をもって、ゼロどころかマイナスの距離感のなかで相手の懐に飛び込むことが、触覚を通じたコミュニケーションの魅力でもあるのだ。不確実である「にもかかわらず」信じる、この逆説を埋めるのが「信頼」なのだという。もう一つユニークな指摘が、触覚には伝達モード（さわる）と生成モード（ふれる）があるというもので、前者は一方向的な作用のこと、後者は「ふれあい」という言葉に象徴されるように、双方向的な触感を通じてその場で生み出された要素を共感的・情緒的に取り込むライブ感あふれる交わりのことである。

ところで、会議や催しごとの冒頭に、十回の念仏を声に出して一緒にとなえる「同唱十念」の作法は、浄土宗では定番の「さあ、これから始めるぞ」というシグナルである。ところが、これがオンラインになった途端にどうも具合がよくない。多人数で同時に行うとどうしてもタイムラグが生じてしまい、不思議ないら立ちを醸し出すのである。もちろん樂觀的に考えれば、これもいずれはデジタル技術の進展によって解決される問題かもしれない。

一方で脳裏をかすめたのはもう少し根本的な問題だ。共に声を合わせる十念という行為は単なる聴覚（音声）の共有に限定されるもののだろうか。

あらためて考えてみれば、十声を一緒にとなえているのはほんの短い間だけ
れど、その刹那刹那のなかで、共に喉を振わせ、共に身を振わせ、共に心を振
わせて、受け手である仏に最高の和合声を届けるべく、最適解を求めて不断の
コミュニケーションが繰り返されている。か弱き凡夫たちが互いの呼吸を拾
い合って信頼を築きゆくなかで共作した、まさにそよ風が頬をなでるようなや
さしいハーモニーなのだ。

そう思えば、同唱十念は決して伝達モードではなく、生成モードとしてその
場で生み出されてゆく即興性こそが命なのであって、どこか共時性や相互性に
欠けるオンラインではしつくりこないのも当然だろう。十念は誰かの声に寄り
かかって、他者のリズムに半分乗りながら、「だいじょうぶだよ」と伝え合っ
て伴走してゆく身体的なコミュニケーションの塊なのだから、どうしても互
いの身口意に触れ合うような確かな手ざわりが必要となるのだ。

そうして生まれた呼吸と声息の共同作品は、やわらかくて、きもちよくそよ
ぐ風のように私たちの間を潜り抜けて、停滞した気分を仕切り直して誰かと共
に前に進もうという凜とした決意をそっと促してくれる。

さあ、「にもかかわらず」をグツと飲み込んで、大きく息を吸い込もう。だ
いじょうぶ。心を開きゆだねて、何かを始めてみよう！

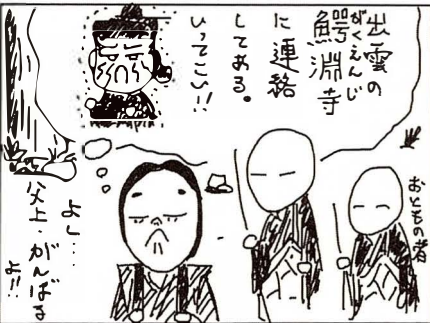
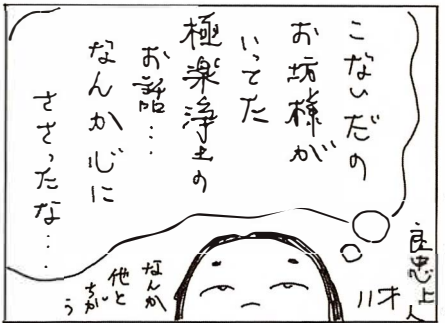
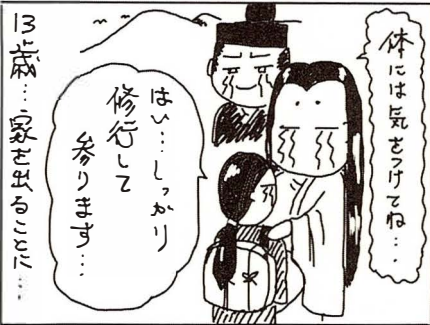
浄土宗のお祖師様

その2

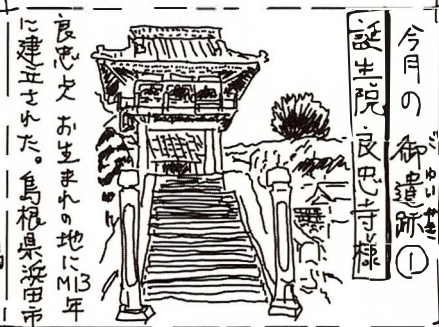
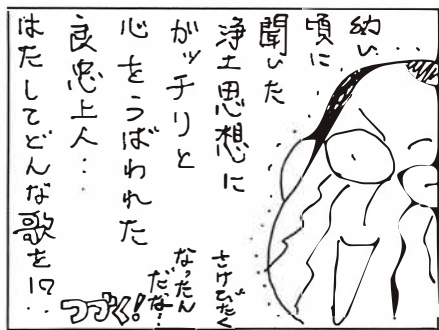
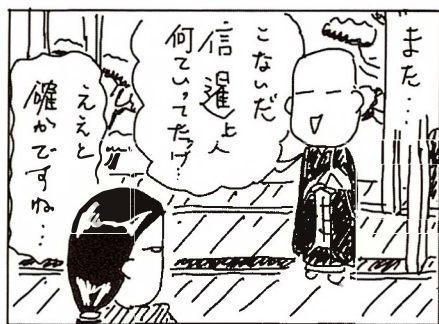
三祖良忠と

第三次話

くんじまん







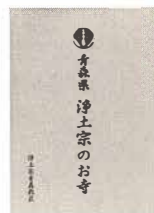
『青森県 浄土宗のお寺』刊行

花田俊岳（編集委員長 青森・弘前 遍照寺住職）

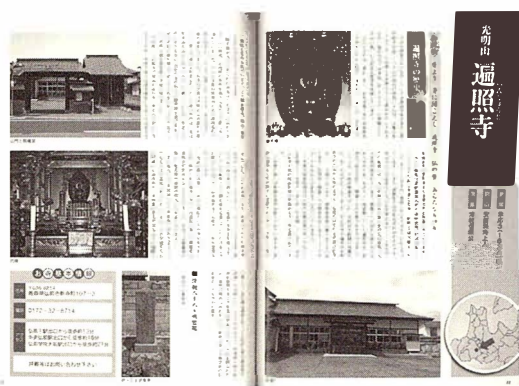
4月、『青森県 浄土宗のお寺』が刊行されました。これは当教区教区長、大屋俊孝上人の発願によるもので、教区の全面的協力により完成した県内全寺院（102か寺）の歴史や現状を紹介した書籍です。

学術的なものではなく、檀信徒の皆様にご自分のお寺や、県内寺院の事に興味を持っていただけのような内容になっています。

百件余りの寺院の成り立ちは様々で、先人から受け継がれた地域の核としてのお寺の大切さが伝わります。青森県内の各寺院に備え付けてありますので、ご縁がありましたらご一読下さい。



『青森県 浄土宗のお寺』表紙



浄土宗青森教区発行 A4版222ページオールカラー
非売品

みんなの 境内

日本各地の徳本名号塔

浄土宗総合学術大会・

ポスターセッション

石川達也（念仏行者徳本上人研究会事務局
千葉・館山 大蔵院副住職）

9月9日と10日に大正大学で開催される浄土宗総合学術大会。念仏行者徳本上人研究会として2回目となる「日本各地の徳本名号塔」のポスター発表をする予定です。

前回（令和元年）は1632基を報告しましたが、その後さまざまご縁をいただき、前回より180基ほど多く報告できそうです。

また会場では徳本名号塔一覧の小冊子を実費にて配布する予定です。新規情報を教えてくださった方にはそれを進呈いたしますので、どうぞよろしく願います。

第六回

東海道(4) 街道の難所

森清鑑

江戸 日本の街道探訪

家康の
全国道路網
造り

今切の渡しいまぎれ

東海道には「七里の渡し」の他に、もう一つ長距離の舟渡しがある。それが浜名湖底辺を舟で渡る「今切いまぎれの渡し」である。元々、浜名湖は内陸に一つの湖として存在していた。その時、人々は東海道を遠州灘沿いに歩いていった。その道は砂州。浜名湖からは浜名川が遠州灘に向かって流れており、東海道には橋が架かっていた。だが1498年、大地震が起きる。浜名湖から遠州灘に向けて存在する広い砂州が沈下。潮がなだれ込み橋はふつとび、浜名湖と遠州灘が繋がってしまう。処の人は、この砂州の決壊を「今切いまぎれ」と呼んだ。今、切れたという意味である。かくて辺り一面、浅い海と化してしまったのである。家康は東海道を本格的に整備する時、思案する。なにしろここは家康のお膝元であり、重要な軍事拠点であった。そこで家康はこの浅い海を利用し、江戸から見れば大きな

外堀に位置づけることに決めた。この浅い海の東西に宿を置き、「舟渡し」することに決める。

これが「今切の渡し」である。そして湖の東側に舞坂宿を西側に荒井宿を設け、荒井宿の舟渡し場に厳重な関所を設けることにした。東海道の「出女と入り鉄砲」を厳しく取り締まるためである。後年、荒井の関所は、箱根に次ぐ東海道の二大関所と呼ばれることになる。

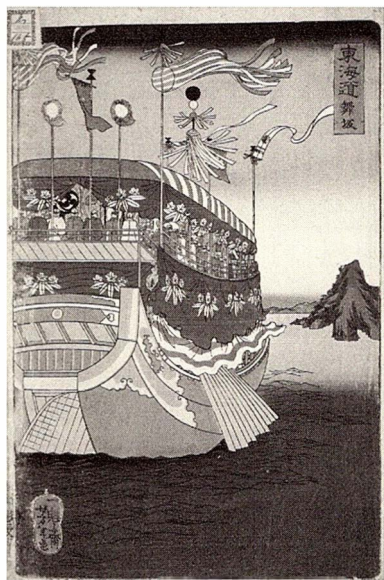
「今切の渡し」は距離一里（4 km）。晴天の日には、広々とした水が織りなす風光明媚な景色の中を、大名行列の殿様を乗せた、派手な御座船が行き交ったのである。

舞坂宿

江戸から旅して浜名湖に近づくに街道の両側に旅籠が並んでいる。ここが舞坂宿。旅籠の数は28軒。湖が見えてくると2棟の本陣と脇本陣が1棟建っている。そこを過ぎると北から南へと舟渡場

が3カ所縦に並んでいる。それぞれ約30m四方の石畳が敷かれ石段があり、常夜灯が立っている。舞坂宿では舟渡場のことを雁木と呼んだ。北雁木（大名専用）、中雁木（武士専用）、南雁木（庶民用、荷物の積み降ろし）である。

東海道名所風景で一魁斎芳年は、豪華な御座船が北雁木を出港する様を描いている。御座船には、今切れの渡しを荒井宿に向かって出港する大名行列の一行が乗船しているようである。朱塗りの船



東海道名所風景：一魁斎芳年：舞坂の御座船。
大名行列一行が乗船している

には藩幕が張り巡らされ、武士が取り巻くように座し、十数本の櫓が海に垂れている。これからこの櫓が一斉に動くのである。

荒井宿

右遠方に弁天島が見え、大鳥居を過ぎる。広々とした風光明媚な光景となる。一里の航海を終えると正面に常夜灯、石垣、そして荒井の関所が見えてくる。御座船、帆船、小舟などいろいろな船

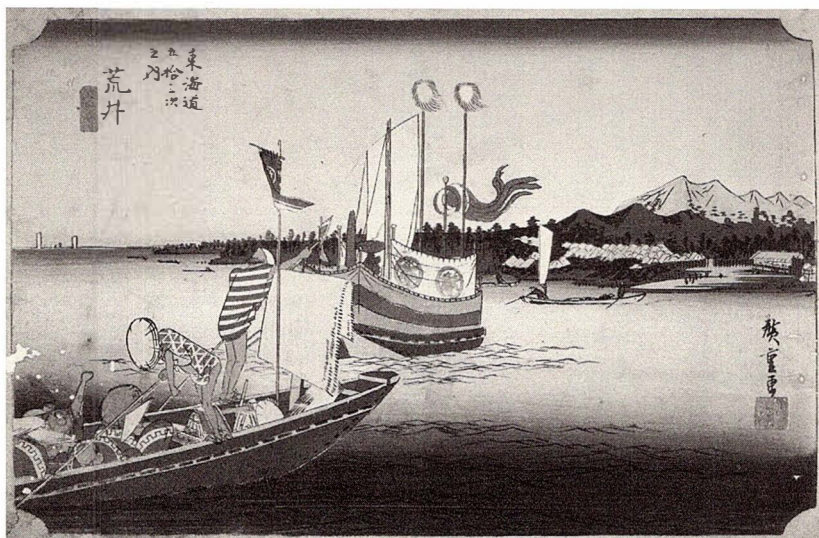
がまとまって荒井港に向かっている。荒井の宿場は関所に繋がって左方に細長く並んでいる。旅籠屋26軒、本陣3棟。

広重は、今来た航路を荒井の関から舞坂に向かっても描いている。数隻の帆船がこちら（荒井）に向かっている。背後には白い富士が聳え、手前が荒井の舟渡場。停泊帆船のマスツが林立。常夜灯、関所の門と柵が描かれている。

荒井（現在は新居）とは遠州灘から打ち寄せる波浪が荒かったところからついた名。安政2（1855）年に建てられた関所の面番所が遺存され、今日、貴重な資料となっている。

薩埵峠（薩陀峠）
さった

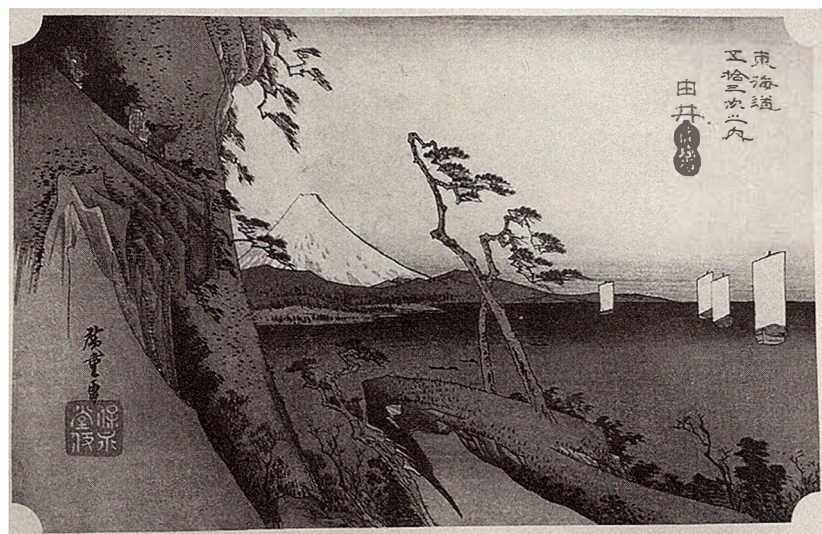
東海道の山越えの難所と言え、箱根の山と鈴鹿峠が浮かぶ。海沿いの平地を行く東海道にも、いくつも難所があった。まずは薩埵峠である。由比宿を越して興津宿に向かう。すると切り立った



広重：正面は荒井の関所、荒井宿。
御座船、帆船などまとまって荒井の舟渡場へ

断崖に阻まれる。この山が薩陀山である。正式名は磐城山。前面の海で漁をしていた漁師の網に地藏薩陀の仏像がかかる。村人達はこの仏像を大切に保存し山頂に祀る。人々は次第にこの山を薩埵山と呼ぶようになる。その頃は波に洗われている崖の麓を人々は危険を冒して歩いていった。だが、余りにも危険。幕府は山腹を切り開いて新しい道を作る。これが薩陀峠である。広重の有名な絵、由比「薩埵嶺」峠は、旅人が峠から怖々と前方の真白き富士を覗いている光景である。遠州灘の青は映え、帆をはらむ舟が描かれ、手前の岸壁の松は強い風になびいている。動きのある峠と富士と海の絵である。

広重は、東（由比）から来て薩埵峠の登り口にある海岸の崖を利用して建てた有名な茶屋「望嶽亭藤屋」も描いている。目の前に、薩埵峠の崖があり、波が押し寄せている。その手前に茶屋、「藤屋」がある。藤屋の2階から海を眺める客、「さ



広重：由比「薩埵峰」：薩埵峠から見る富士

ざいの壺焼き」の看板、茶屋の前で富士山を振り返り見る女性などが描かれている。

一光斎芳盛は、反対の西から切り立つ断崖を登り「薩埵峠」越えをする大名行列を描く。隊列を乱さずに整然と登る様子が泣けてくる。峠の先に富士が見える。

宇津谷峠

駿府城の外堀たる安倍川をかし渡しで渡り、山



東海道名所風景：芳盛：薩陀峠：西から薩陀越えをする大名行列の一行

間部の^{まりこ}鞠子の宿を過ぎるといきなり急峻な宇津谷峠に差し掛かる。これは、鞠子と岡部宿の間にある薩埵峠と並ぶ東海道の難所である。宇津谷峠の麓には名物「^{じお}十だんご」の茶店が並ぶ。貞秀の「宇津谷峠」は、大名行列がまるで転げ落ちんばかりの急峻な坂道を登っていく様を描いている。茶屋から参詣道を登っていくと地藏堂。東海道はその左脇を登っていく。

名所風景に描かれているのは東からの登山道だ

が、西から登る岡部宿からの登山道も昔から大変な難所として恐れられていた。在原業平は『伊勢物語』でここを「蔦の細道」と表現し、薄暗い蔦に覆われた恐ろしい坂道を登る恐怖を述べている。広重が描く「岡部宇津之山」は、秀吉が小田原遠征の際に切り開いた東海道で、業平の時よりもずっと開けているがそれでも薄くらしい雰囲気漂っている。



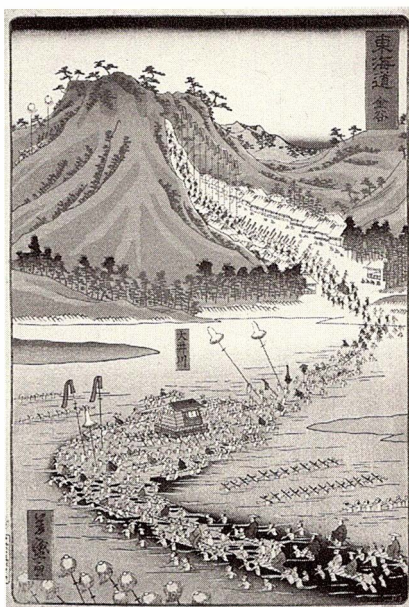
東海道名所風景：貞秀の「宇津谷峠」大名行列が急峻な坂道を登っていく光景

そしてようやく急峻な坂道を登り切ると頂上に上立場茶屋かみたちばがあり、十だんごを食しながら山々のすばらしい景色に堪能している姿を描いた広重の絵もある。笠、上半身、やつと全身が現れる旅僧の姿がいかに急峻な登山道かを物語る。頂上でくつろいだ後、さきほどの鞠子から登る急峻な坂道を下ることになる。

金谷から日坂宿

につまか

もう一つ、大変な大井川のかち渡りを終えると、その待つているのは金谷宿への急峻な坂道である。その様子は芳盛の大名行列の絵に示されている。行列は急峻な坂道を登っていく。問題はこれからである。山々を越え、金谷から日坂宿までの山道は箱根と並ぶ険阻な道として知られていたのである。



東海道名所風景：芳盛：金谷：
大井川を渡り終えた大名行列は、次は金谷に向けて目の急峻な坂を登っていく

もり せいかん
1941年東京生まれ。大学卒業後ドイツ系
商社に入社。その後、海外情報、広告・マー
ケティング調査・分析、インフォメーション
オンデマンドサービス事業に携わる。廃棄
物関連調査 Mori & Associates 主催。

暑中お見舞い申し上げます

令和三年

浄土宗総本山知恩院門跡
浄土門主

伊藤唯眞

大本山 増上寺
法主

八木季生

大本山 くら谷

金戒光明寺

大本山 百萬遍知恩寺
法主

福原隆善

〒606-8225 京都市左区田中門前町一〇三

大本山 清浄華院
法主

飯田実雄

大本山 善導寺
法主

阿川文正

大本山 光明寺
法主

柴田哲彦

鎌倉市材木座
TEL 〇四六七(二二)〇六〇三

大本山 善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

〒380-0851長野市元善町一五〇〇

暑中お見舞い申し上げます

令和三年

浄土宗務総長

川中光教

法然上人御誕生地
浄土宗特別寺院

美作
誕生寺

〒709-3602 岡山県久米郡久米南町里方八〇八
TEL 〇八六 (七二八) 二一〇二一
FAX 〇八六 (七二八) 二一六二一

(学)大乘淑徳学園
理事長

長谷川匡俊

〒174-8645 東京都板橋区前野町五・五・二

学校法人 淑徳学園
淑徳S.C. 中等部 高等部

理事長
校長
麻生諦善

赤坂六地藏尊

浄土寺

住職 阿川正貫

〒107-0062 東京都港区赤坂四・三・五

鶏頭山安楽寺

飯田英心

〒399-4115 駒ヶ根市上穂栄町九・五
電話 〇二六五 (八三二) 三三六〇

清水湊

忠高山
實相寺

都文京区

〒112-0002

東京
小石 二丁目 三十四番地 八号

無量山
傳通院

電話 〇三 (三八一四) 三七〇一 (代表)

家康公祖母菩提所

玉桂山
華陽院

勝願寺

〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町八・二・三二
電話 〇四八 (五四一) 〇二二七

暑中お見舞い申し上げます
令和三年

九品阿彌陀如来

淨眞寺

〒158-0083 世田谷区奥沢七・四一・三
住職 清水英碩

岩淵

天王山
正光寺

〒115-0041 東京都北区岩淵町三十二・十一

無縁寺

回向院

〒130-0026 東京都墨田区両国二・八・十
電話〇三(三六三四)七七七六

投込寺 淨閑寺

戸松秀明

〒116-0003 荒川区南千住二・一・一二

古今伝授の寺

天主君山 願成寺

〒411-0022 静岡県三島市川原ヶ谷十八
住職 島尾孝久
メールマガジン ranjoji.com

塩竈市 雲上寺

東海林良昌

五劫山 愚鈍院

〒984-0051 仙台市若林区新寺三・十二・十七

寿福山 寛慶寺

水科善隆

〒380-0832 長野県長野市東之門町四〇六番地
電話〇二六(二三三三)一八二二

大吉寺住職

アジアカスミ連盟 会長
国際カスミ連盟 執行役員
公益社団法人 日本カスミ連盟 会長

成田昌憲

〒154-0017 世田谷区世田谷四・七・九

梅窓院
住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38
電話 03 (3404) 8447
ホームページ
<http://www.baisouin.or.jp>



「のらくろ寺」・「のらくろ和尚」
住職 飯島英徳

北海道室蘭市
満岡寺・善行寺
(0143)22・4677・44・2695

暑中お見舞い申し上げます

令和三年

浄土宗東京教区
教区長

高橋 誠実

無量寺

〒158-0097 世田谷区用賀四・二十・一

浄土宗東京教区教化団团长
浄心寺住職

佐藤 雅彦

〒113-0023

文京区向丘二・一七・四

鎌倉大仏殿

高德院

〒218-0016 鎌倉市長谷四・二・二八
電話〇四六七（二二）〇七〇三
FAX〇四六七（二二）五〇五一

浄土宗議会議員
埼玉興佛教会副会長

蓮馨寺

住職 糸原恒久

〒350-0066 川越市連雀町七・一
電話〇四九（二二二）〇〇四三
FAX〇四九（二二六）〇六七六

浄土宗議会議員
学校法人森嚴寺学園
社会福祉法人崇仁会

加藤 昌康

東京教区 森嚴寺

願行寺

佐藤 久雄

〒140-0004 品川区南品川二・一・一一

光円寺住職

佐藤 良純

〒112-0002 文京区小石川四・一二・八

戒法寺住職

長谷川 岱潤

〒141-0021 品川区上大崎一・九・十一

編集後記

巻頭はオリンピックにカヌー選手として出場、今は世界のカヌー協会の重鎮と
なっている東京世田ヶ谷、大吉寺の成田
昌憲住職に寄稿いただいた。カヌー人生
の興味深いストーリーリとなっている。

「ぶつぶつ放談」には若手僧侶にご登場
いただき、仏教とマンガを語っていただ
いた。仏教と縁の深い漫画も少なくない。
仏教の話の入り口として漫画や各ジャン
ルの歌の歌詞に登場する仏教の教えに繋
がるフレーズは見逃せない。そうした日
頃の思いを企画にした。

当会を応援していただいている長野駒ヶ
根の安楽寺・飯田実雄住職が大本山清浄
華院のご法主に推戴された。当会の会長

を長く勤めていただいた真野龍海前台下
の後任、何よりの慶事だ。

新しいHPを作っている。下のスタッ
フ欄の3人が主役だ。すでにツイッター
やフェイスブックが動き出している。月
刊誌とWebのタイムラグにとまどい、
Web原稿にも馴染むのに時間がかなり
かかる。嬉しい限りである。二つの
QRコードを掲載。HPに向けての経緯
も楽しめる。どうぞお立ち寄り下さい。



http://twitter.com/sangokai_honen

<http://facebook.com/sangokaihonen>



雑誌『浄土』
特別・維持・賛助会員の方々

飯田実雄(大本山 清浄華院)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
加藤昌康(下北沢・森厳寺)
河本悠大(函館・称名寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤久雄(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光園寺)
東海林良昌(塩釜・雲上寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
成田昌憲(世田谷・大吉寺)
野上智徳(静岡・宝台院)
長谷川岱潤(東京・戒法寺)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多将敬(両国・回向院)
松濤泰彦(芝・寶松院)
水科善隆(長野・寛慶寺)
(敬称略・五十音順)

ホームページ jodo.ne.jp/
メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

編集長
編集部員

デジタル編集部員

村田洋一
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
平井泰代子
本原克道
服部祐淳
小路竜嗣
赤坂明翔

浄土

八十七巻 七・八月号

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 令和三年六月二十日

発行 令和三年七月一日

佐藤良純

長谷川岱潤

株式会社 晩印刷

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四七四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

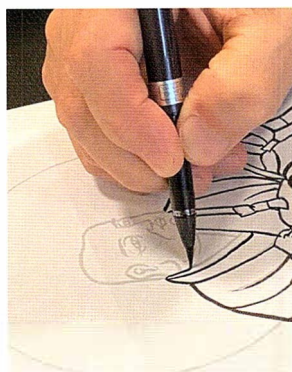
電話 〇三三・五七六・六九四七

FAX 〇三三・五七六・七〇三六

振替 〇〇一八〇・八・八二八七

写シリーズ

便利で書きやすいA4版の奉書で、
誰でもできるなぞり書き仕様です。



写仏

阿弥陀三尊、薬師如来、地藏菩薩、法然上人
1セット6枚の5組入り 5000円

写経

浄土宗日常勤行式(三奉請版、四奉請版)
1セット12枚の5組入り 6000円

写詠歌

宗歌「月かげ」と法然上人四季の御詠歌
1セット5枚の5組入り 3000円

書籍シリーズ

『浄土』連載の単行本から書き下ろしまで、
読み応えのある本をお届けします。

『浄土・念仏読本』復刻版

2000円

『和英対応 法然上人のお言葉』 梶村 昇著、川西良治訳

1000円

『浄土の道』 真野龍海著

1700円

『差し出し人は法然さま』 袖山榮輝・林田康順・小村正孝共著

600円

『響流十方』 袖山榮輝・林田康順・小村正孝共著

600円

『響流十方』 其の二 袖山榮輝・林田康順・小村正孝共著

640円

※表示価格は定価で税別となります。

ご購入とお問い合わせはこちらへ

ほうねんしょうにんさんこうかい

法然上人讃仰会 105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階

TEL 03-3578-6947 FAX 03-3578-7036 Mail hounen@jodo.ne.jp HP jodo.ne.jp

